

2006

●札幌市立大学 開学・第1回入学式

4月8日、第1回入学式を行いました。デザイン学部81名、看護学部82名が、晴れて1期生として入学しました。初代学長原田昭が新入生へのエールを送りました。



第1回入学式 (芸術の森キャンパス)

●スタートアップ演習開講

「デザインと看護の連携」を体現する授業として開講しました。両学部の1年生全員と教員21名が協同で授業に参加する全学的な授業でした。

●サテライトキャンパス開設

生涯学習や産学連携活動の拠点として、札幌駅前の日本生命札幌ビル5階に開設しました。



サテライトキャンパス (初代)

●研究交流会の開催

開学当初より、デザイン×看護の連携を推進するため、毎年学内研究交流会を実施しています。現在は、AITセンターを加え、DNA連携を推進することを目的に学内研究交流会を開催しています。



研究交流会のようす (芸術の森キャンパス)

2007

●地域連携研究センター、アドミッションセンター設置

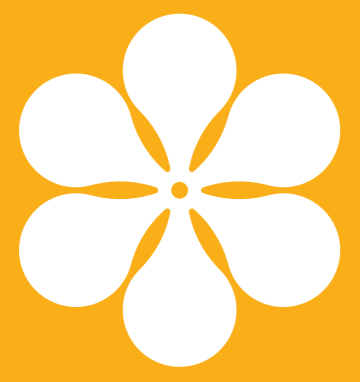
地域連携研究センターは、本学における研究活動・地域貢献及び国内外のネットワークの形成推進を図ることを目的に設置しました。また、アドミッションセンターは、入学者選抜等の改善・充実を図り、その円滑な実施に資することを目的に設置しました。

●札幌市立高等看護学院閉校

1965年に開校した札幌市立高等看護学院は、札幌市立高等専門学校との統合により、この年に閉校しました。

●承德医学院との学術交流協定締結

2006年度の又松大学 (韓国) に続いて、本学にとって2校目となる海外大学との協定締結でした。



2008

●質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)の採択

教育GP(質の高い大学教育推進プログラム)は、質の向上につながる教育取組の中から特に優れたものを選定し、重点的な財政支援を行うプログラムです。

本学が応募したテーマ「学年別OSCE(客観的臨床能力試験)の到達度評価と教育法の検討」が採択されました。

●札幌市立大学大学院基本計画策定

2010年度の大学院開設を目指して、基本計画を策定しました。

●札幌市立高等専門学校本科閉校

前年の札幌市立高等看護学院閉校に続き、1991年に開校した札幌市立高等専門学校本科(5年課程)も閉校しました。

●認定看護管理者教育課程サードレベル開講

サードレベルは、日本看護協会が認定する看護管理者教育の最終課程です。看護サービスの質向上を担う看護管理者が役割を發揮し活躍できることを目的として、北海道において初めて開講しました。2025年度までに、200名を超える方が課程を修了しています。



認定看護管理者教育課程サードレベル 開講式

2009

●清華大学美術学院との学術教育交流協定調印

本学にとって3校目の協定となり、7月に札幌市内のホテルにて、調印式がおこなわれました。

●大学院(修士課程)設置認可、助産学専攻科の助産師学校指定通知

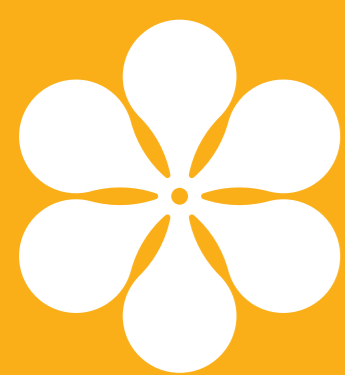
デザイン研究科(修士課程)、看護学研究科(修士課程)の設置認可、助産学専攻科の助産師学校指定通知を受け、2010年度より開設することになりました。

●第1回卒業式

3月19日、初めての卒業式が行われ、デザイン学部92名、看護学部87名が、晴れて卒業の日を迎えました。



第1回卒業式(芸術の森キャンパス)



2010

●デザイン研究科・看護学研究科・助産学専攻科 開設

デザイン研究科 (修士課程) 18名、看護学研究科 (修士課程) 18名、助産学専攻科9名の1期生が入学しました。

●サテライトキャンパス移転

サテライトキャンパスが、アスティ45の12階に移転しました。

●札幌市立高等専門学校閉校

2008年の札幌市立高等専門学校本科 (5年課程) の閉校に続き、札幌市立高等専門学校専攻科 (2年課程) も閉校しました。札幌市立大学の母体となった2校がすべて閉校しました。

●大学歌「みらいの手」

2009年に学内で歌詞と曲の公募を行い、大学歌「みらいの手」が完成しました。作詞はデザイン学部4期生の後藤優太さん・首藤翠さん、作曲はデザイン学部3期生の堀彩菜さんです。入学式・卒業式で演奏されています。



大学歌「みらいの手」楽譜 (一部抜粋)

2011

●東日本大震災支援

2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地復興支援のため、4月に本学教職員延べ29名を、いわき市ボランティアとして災害派遣しました。

●華梵大学と学術教育交流協定締結

本学デザイン学部とのワークショップを相互開催してきた華梵大学と協定締結を行いました。



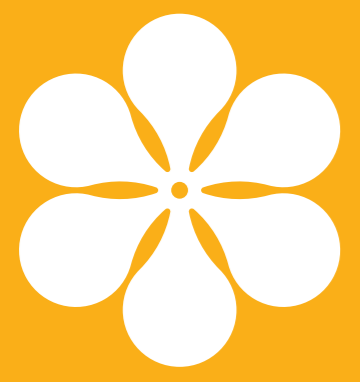
華梵大学との協定締結

●認証評価機関 (公益財団法人大学基準協会) による大学基準適合認定

認証評価制度は、学校教育法に基づいて、定期的に文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による第三者評価 (認証評価) を受けることを義務付けるものです。本学も初めて受審し、大学基準に適合していると認定されました。

●学外研究交流会

産学官の連携強化、新規産業の創出支援、マッチングを目的として、本学教員の研究内容を産業界・官公庁のみなさまに紹介する機会として開催しました。2025年時点は、「SCU産官学金研究交流会」として、多くの連携事業を紹介しています。



2012

●蓮見孝 新理事長・学長就任

第2代理事長・学長として、蓮見孝が就任しました。地域創成の核となる大学づくり、など重点4項目を目標に掲げました。



蓮見孝 理事長・学長

●デザイン研究科・看護学研究科に博士後期課程を開設

修士課程を博士前期課程に変更するとともに、博士後期課程を開設、デザイン研究科4名、看護学研究科5名が入学しました。

●「コネキッド」が「キッズデザイン賞」受賞

デザイン学部の教員・学生による団体「コネキッド (connekid) !」が考案・実施した子ども向け遊びワークショップで「キッズデザイン賞」を複数回受賞しました。震災復興支援で福島でも実施しました。



「コネキッド」開催のようす

●産業界のニーズに対応した教育改革・充実体制整備事業に参加

産業界のニーズに対応した人材育成の取組を行う大学が、地元の企業等と産学協働する取組を国が支援するものです。本学は、秋田県立大学が主導した事業に北海道地区の大学として参画しました。

2013

●文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」採択

空知旧産炭地域における「炭鉱 (やま) の記憶」をキーワードにした地域再生のためのアートマネジメント人材育成事業が採択され、プロジェクトを通じてアートマネジメント人材の育成を行いました。



奔別アートプロジェクト 報告展ポスター

●文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択

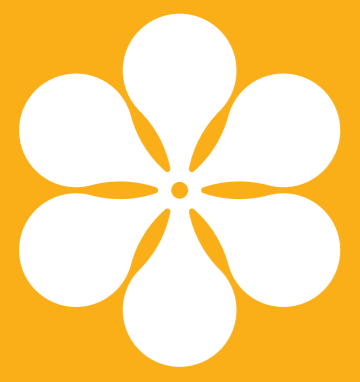
本学が応募した「ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成『学び舎』」事業が、大学COC事業に採択され、2017年度までの5年間、「COCキャンパスまちの学校」を中心に、大学全体で事業を推進しました。

●「タイム・スペースシェアリング型地域連携による地域創成デザイン研究」採択

日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(A)に採択されました。地方市町村と大都市の双方における暮らしの質の維持と、魅力創出のための手法構築を目的として、実証実践研究を行いました。



実証実験のようす



2014

● 広報室設置

本学の広報力強化と情報共有の推進に向け、経営組織と大学組織にまたがる位置づけとして、「広報室」を新たに設置しました。

● 初めての博士後期課程修了者

博士後期課程1期生の学位審査を行い、博士(デザイン学)第1号の学生が修了しました。

● 産業界のニーズに対応した教育改革・充実体制整備事業に参加

北海道の5大学が共同して応募した、「循環型地域人材育成プラットフォーム [若者が育つ大地:北海道]」の取り組みが採択されました。本学では、デザイン学部を中心として、早期キャリア教育やワークショップ型インターンシップの実施に取り組みました。

● 教育支援プロジェクトセンター設置

本学の教育・研究理念に基づき、地域社会で活躍する人材を育成するため、文部科学省の補助事業や公的機関が実施する教育支援プロジェクトを円滑に実施することを目的として設置しました。

2015

● COCキャンパス「まちなの学校」開設

旧真駒内緑小学校の一部に「COCキャンパスまちなの学校」をオープンし、「まちなの教室」・「まちなの談話室」・「まちなの先生」・「まちなの健康応援室」という4つのプログラムを立ち上げて、社会貢献活動を推進しました。

● ラップランド大学と学術教育交流協定締結

教育・研究上の協力と学術交流の促進を図るために、8月に協定を締結しました。ラップランド大学には、これまで数名の学生が留学しており、協定締結が国際的な見聞を広めたい学生に一役買うことになっています。

● 芸術の森地区連合会と地域連携協定調印

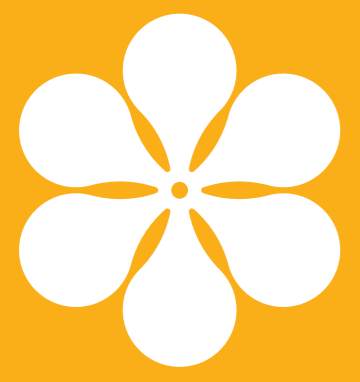
地域の主体的なまちづくりの推進と芸術文化の想像・発展を目的として、デザイン学部の地元である芸術の森地区連合会と地域連携協定を調印しました。教員や学生が地域と一体となって、まちづくり推進や地域活性化を推進することとしました。



「まちなの学校」COCフォーラム



「まちなの健康応援室」



2016

●デザイン学部新カリキュラム・コース再編

デザイン学部のカリキュラムが大きく変わり、従来の4コース(空間・製品・コンテンツ・メディア)から、人間空間デザインと人間情報デザインの2コースに再編しました。

●開学10周年記念事業

2016年9月11日、本学アリーナにて、開学10周年記念式典・記念講演を行いました。記念式典では、本学のためにご尽力いただいた方々に感謝状を手渡しました。
また、秋野豊明氏(溪仁会グループ名誉会長)による記念講演がありました。



開学10周年記念式典(芸術の森キャンパス)



蓮見学長による式辞



記念講演「D×Nの未来」(秋野豊明氏)

2017

●認証評価機関(公益財団法人大学基準協会)による大学基準適合認定

第二期中期計画終了年度にあわせ、2度目の認証評価を受審し、大学基準に適合していると認定されました。

●COC事業終了

2013年度から5年間続いた事業が終了しました。教育面では、学部連携基礎論、地域プロジェクトⅠ～Ⅲを開講しました。研究面では「ウェルネス×協奏型地域社会」の構築を目的とした「COCリサーチ」を12件採択し、

延べ73名の教員が関わりました。社会貢献の面では、公開講座を229回開催、多世代交流イベントの実施、地域住民が講師となったコミュニティ構築、など多彩な事業を行いました。



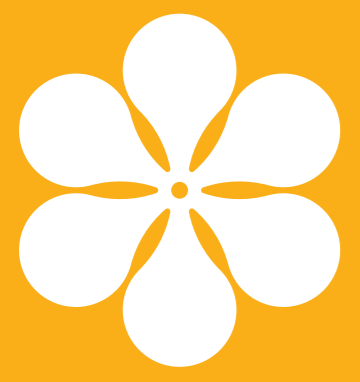
COCイベント開催のようす



COC最終成果報告会(事業総括)



COC最終成果報告会(成果パネル展示)



2018

●中島秀之 新理事長・学長就任

第3代理事長・学長として、中島秀之が就任しました。専門であるAI技術とデザインを融合し、看護の未来を想像していくことなどについて、積極的に取り組むことなどを目標に掲げました。



中島 秀之 理事長・学長

●第三期中期計画始動

第三期中期計画では、地域に身近な大学として、有為な人材を輩出し、有用性の高い研究を推進し、知的資源を地域に還元することにより、市民の期待に応える教育・研究・地域貢献を引き続き着実に取り組むこととしました。

●国立台中科技大学と学術交流協定調印

デザイン学部とのワークショップ、看護学部との連携をさらに深めるため、12月に協定調印を行いました。



台中科技大学との協定締結

●公立はこだて未来大学と学術交流協定締結

医療・デザイン・AIが連携する必要性が増す今後の社会情勢を鑑み、中島学長の前任校である公立はこだて未来大学と協定を締結しました。



はこだて未来大学との協定締結

●北海道胆振東部地震への対応

2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震に関し、直前の6月に包括連携協定書を更新していた厚真町に対して、本学教職員有志によって義援金を送ったり、教員・学生が中心となって復興支援のための広報活動を行いました。

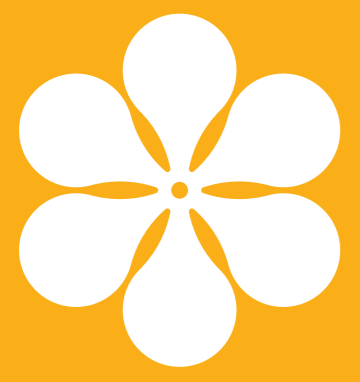
2019

●Pacific Northwest College of Art (PNCA) との学術交流協定調印

教員・学生の交流を主目的として、PNCAとの国際ワークショップに参加した9月に、ポートランド市にある同大学にて協定調印を行いました。

●危機対策本部設置

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への迅速な意思決定を行うため、本学で初めて危機対策本部を設置し、2020年度以降の教育体制、大学運営などについて検討を始めました。



2020

●オンライン授業・オンデマンド授業開始

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への対応として、5月よりオンライン授業やオンデマンド授業を始めました。デザイン学部教務委員会と情報基盤センターが協力して、Microsoft365を活用した教育・研究・業務遂行のための環境を整備し、感染拡大を防ぎつつ、新たな方法での授業継続に取り組みました。

●情報基盤センター設置

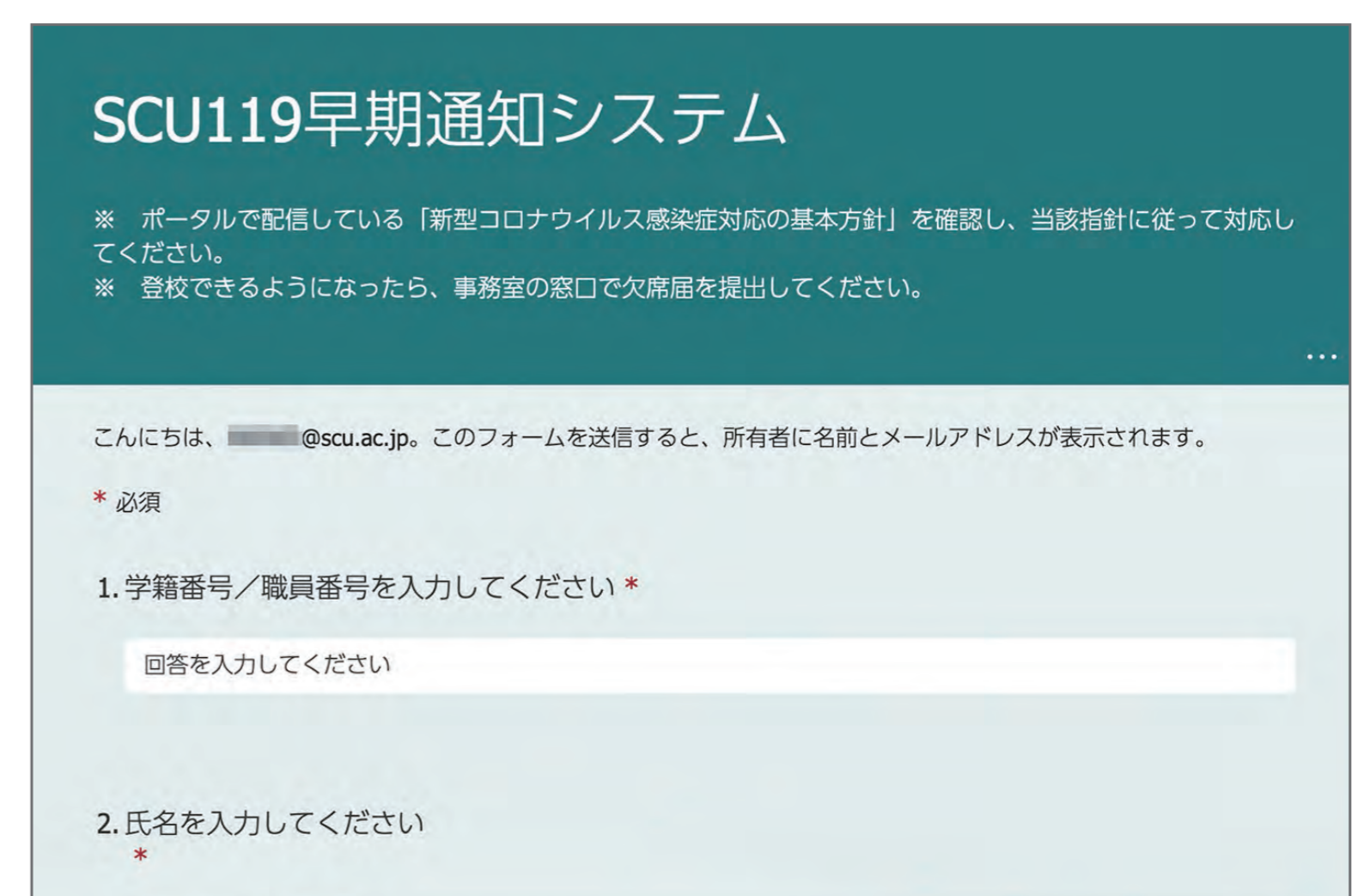
本学の教育研究その他業務の高度化及び円滑な遂行の基盤となる情報システムの運用を行うこと、並びに情報セキュリティの確保を図ることを目的として、情報基盤センターを設置しました。

●SCU119早期通知システム運用

COVID-19に罹患した、またはその疑いがある場合に、教職員・学生から大学事務局へ連絡するためのシステムです。情報基盤センターが開発し、2023年5月まで運用しました。

●行事等のオンライン化

4月の入学式を皮切りに、大学祭、オープンキャンパス、卒業式・修了式をオンラインで開催しました。また、学生が登校せずとも、履修登録や成績確認が可能となるサービスを開始しました。



SCU119早期通知システム (連絡用フォーム)

2021

●新型コロナウイルスワクチン職域接種

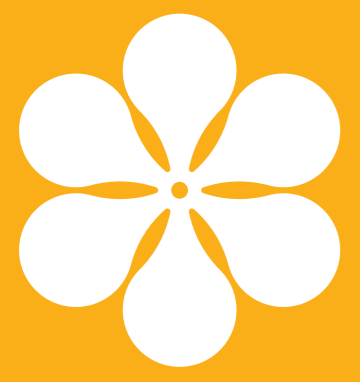
医療従事者に準ずる者、として看護学部教員・看護学部学生を対象にワクチン接種が行われました。また、ワクチンの職域接種制度を活用して、デザイン学部教員・デザイン学部学生・職員に対しても接種が行われました。

●DNAタスクフォース設置

本学の新たなDNA (Design×Nursing×AI) のつながりを創出するために、「教職員が研究や業務内容を共有し、お互いにワクワクする場づくり」を企画・試行する組織として設置されました。



新型コロナウイルスワクチン職域接種会場



2022

●AITセンター設置

本学が掲げるデザインと看護の連携 (D×N) を、AIにより下支えしていく「DNA」を新たなモットーとして掲げ、AI研究と「DNA」を推進するための研究機関として、AITセンターを開設しました。



AITセンター (ジョブキタビル)

●DXワーキンググループ設置

2024年度からの第四期中期計画に向けて、情報基盤センター長を中心としたDX (デジタルトランスフォーメーション) ワーキンググループを設置しました。教職員や学生からの要望を取りまとめ、研究DX、教育DX、業務DXなどについて、第四期中期計画案に盛り込みました。

2023

●認証評価機関 (一般財団法人大学教育質保証・評価センター) による大学基準適合認定

第三期中期計画終了年度にあわせ、3度目の認証評価を受審し、大学基準に適合していると認定されました。

●札幌市・国立研究開発法人防災科学技術研究所との包括的連携協力協定締結

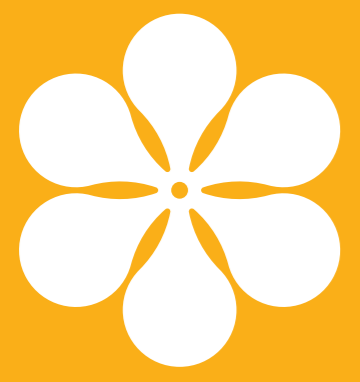
寒冷地域における防災・減災に関する研究および活動を推進してその成果を活用し、災害に強いレジリエンス (回復力・復元力の意) の高い地域づくりの実現を目的として、連携協定を締結しました。



札幌市・防災技研との包括連携協定締結

●まこまないキャンパス閉鎖

2013年度から約5年間続いたCOC事業 (地 (知) の拠点整備事業) が終了したあとも、教育・研究・地域貢献の場として継続運用してきた「まこまないキャンパス」を閉鎖し、その機能を芸術の森キャンパスに統合しました。



2024

●地域連携研究センターを研究支援地域連携センターに改称

2007年4月に設置された地域連携研究センターの業務内容を精査する中で、より業務内容を組織名称に反映する目的で、名称を研究支援地域連携センターと改称しました。

●「日経リスキリングアワード2024」審査委員特別賞を受賞

日本経済新聞社の開催する「日経リスキリングアワード2024」にて、本学が主導し、20以上の病院が参加する『看護コンソーシアム』の取り組みが審査委員特別賞を受賞しました。



日経リスキリングアワード2024 表彰式

●リベラルアーツセンター設置

急速に変化する社会情勢に対応できるリベラルアーツ教育を行うために、潜在的なリベラルアーツ教育要素を体系的に調査・研究し、全学的に推進するリベラルアーツセンターを設置しました。

2025

●看護学専攻科公衆衛生看護学専攻(保健師養成課程)の設置認可

2026年4月の開設に向けて、文部科学省に申請していた「看護学専攻科公衆衛生看護学専攻(保健師養成課程)」について、設置認可を受けました。この専攻では、看護学を基盤に、公衆衛生看護学に関する幅広く高度な知識と正確な技術を修得し、地域住民の健康維持・向上に貢献できる人間性豊かな保健師の養成を目指します。これに伴い、既存の助産師養成課程がある助産学専攻との2専攻体制となります。

●開学20周年記念事業実行委員会発足

2026年に開学20周年を迎えるにあたり、教職員10名からなる実行委員会が発足しました。広く市民や関係者への感謝の意を示すとともに、今後のさらなる発展を目指し、大学認知度の向上、プレゼンスの向上を図ることを目的として、さまざまな連携事業を企画中です。

●開学20周年記念ロゴマーク・キャッチコピー決定

開学20周年を迎えるにあたり、教職員、学生、卒業生を対象に、ロゴマークとキャッチコピーを募集しました。学内投票を経て、ロゴマーク22点の中から古城花奈さん(デザイン学部卒業生)のデザイン(右図)、キャッチコピー56点の中から成田ゆいさん(デザイン学部3年)の「D×N(にじゅう)の学びで、20年。」が採用されることになりました。20周年関連事業において、広く利用されています。



札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY